
平成30(2018)年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成30(2018)年10月3日
栃木県農業環境指導センター

ミツユビナミハダニのトマトでの発生について

- 1 害虫名 和名：ミツユビナミハダニ
学名：*Tetranychus evansi* Baker & Pritchard
- 2 発生作物名：トマト
- 3 発生経過
 - (1) 平成30(2018)年8月、宇都宮市の雨よけ栽培トマトにおいて、葉に白化症状が生じ、葉裏に橙色のハダニが高密度で発生していた。採取したハダニを横浜植物防疫所に同定依頼した結果、ミツユビナミハダニと赤色型のナミハダニの混発であることが判明した。
 - (2) 分布及び発生状況
国内では平成13(2001)年に大阪府と京都府のイヌホオズキで初めて発生が確認され、現在までに関東以西の一部地域（群馬県、東京都、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、高知県、福岡県、長崎県、鹿児島県、沖縄県）から発生の報告がある。
- 4 被害の特徴
主に葉裏に寄生し、発生初期には葉表に小斑点を発生させ、多発すると寄生部位が白化し、高密度になると枯死に至る。
- 5 形態及び生態
 - (1) 雌成虫は体長0.6mm程度で体色はくすんだ橙色～濃橙色、雄成虫は体長0.5mm程度で乳白色～淡橙色、第3静止期の若虫は緑色である。
 - (2) 寄主植物はトマト、ミニトマト、ジャガイモ、ナス、ピーマン、トウガラシ、パプリカ、ホオズキ、イヌホオズキ、ワルナスビ等のナス科植物に特化している。
 - (3) ナミハダニやカンザワハダニを上回る高い増殖能力がある。
 - (4) 本種は休眠性を示さず、耐寒性も低いので、本県での野外越冬は困難であると考えられる。また、本県での分布は不明である。
- 6 防除対策
 - (1) ほ場周辺のナス科雑草（イヌホオズキ、ワルナスビ等）は、本種の発生源となるので、除草に努める。
 - (2) 収穫終了後の株や残渣は本種の発生源となる可能性があるため、早めに処分する。
 - (3) ハダニ類に登録のある殺ダニ剤での防除が有効である。
 - (4) ハダニ類に登録のある天敵製剤のミヤコカブリダニ剤やチリカブリダニ剤では、ミツユビナミハダニを捕食できないため、防除効果が期待できない。



写真1 小斑点が生じた被害葉



写真2 高密度で寄生するミツユビナミハダニ



写真3 ミツユビナミハダニ雌成虫

7 引用文献

- 植物防疫所病害虫情報 第109号(2016年7月15日)
後藤哲雄(2010):植物防疫 第64巻第4号 49~53.
小坪遊ら(2004):日本ダニ学会誌, 13(1):71~76.
群馬県(2015)平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号
和歌山県(2017)平成29年度病害虫発生予察特殊報第1号

詳細は、農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センター
ホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。